

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3770800146		
法人名	株式会社せとうち福祉サービス		
事業所名	グループホームせとうち		
所在地	香川県三豊市三野町甲605番地2		
自己評価作成日	平成24年9月25日	評価結果市町受理日	平成23年1月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/37/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JiryousoCd=3770800146-00&PrefCd=37&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号
訪問調査日	平成24年11月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ①認知症ケアの質の向上を目指し、職員全員が可能な限り研修等に参加している。専門的な知識・技術を習得し、行動心理症状、周辺症状が軽減できるように、ご家族様の協力をいただきながら支援している。
- ②総合介護サービス会社の中のグループホーム事業所として、他組織との連携サービス、情報入手がスムーズであり、運営の透明性が図りやすい。
- ③主治医との連携により、24時間安心して支援することができている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

代表者は、認知症の理解の普及やケア、サービスの質向上を目指し、信頼される事業所の運営に力を注いでいる。職員はそれを理解し、自分達の思いや意見を反映した理念を作成し、日々の関わりの中で実践できるように前向きな姿勢で取り組んでいる。利用者や家族の面会等で要望や意見を傾聴し、職員の意向やアイデアを話し合い会議で検討している。利用者一人ひとりの状況を把握して、能力に応じた役割を一緒にしたり、ケアの見守りや支援に活かしている。日舞やカラオケ、エステマッサージ等のボランティアの訪問や、編み物、塗り絵によるカレンダー作り、外食、散歩やドライブ等、毎月の行事の中に、楽しみながら五感を刺激し体力維持や個々の持てる力を引き出せるようなものを取り入れている。また、利用者のケアやサービスの質向上に視点を置いた、職員の意見や提案が運営に反映されており、今後の更なる活躍に期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日2回、職員と入居者様とともに理念を復唱し、理念を意識づけ、実践できるようにしている。	理念は、職員の意見を反映し作成している。毎日2回、職員と利用者が参加して唱和し、理念を共有して実践できるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会との交流やご支援をお願いし、ボランティア・行事や祭り等、交流が図れている。また、入居者様の馴染みの美容院や洋品店、市役所、専門医等に付き添い、出向くことにより、地域の方達と継続して交流が図れるように支援している。	日舞、カラオケ、エステマッサージ等、ボランティアの訪問や実習生を受け入れたり、地域のお祭りや利用者が馴染みの場所に出かけている。地域と事業所、利用者がお互いの暮らしや環境の中で、つきあい可能な範囲での交流を支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者様を訪問して下さる方達に病気をご理解をいただき、継続して訪問いただいたりとお話をしたり、また、認知症を患っているご家族様からの相談には、できる限り応じている。実習生の体験実習等も受け入れている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月間の運営の実態を報告し、委員の方からの現状把握の中から、課題を検討してアドバイスをいただき、サービス向上に活かしている。	運営推進会議は2ヶ月に1回、定期的開催し、行政や利用者家族、地域の関係者が参加している。事業所の状況や、行事、取り組み等を報告し、参加者の意見や要望等を話し合う機会になっている。また、その中から課題を検討して、サービス向上に取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、必ず市の担当者の方が出席していただき、事業報告を行ったり、アドバイスをいただくことができている。	事業所の状況を報告し、相談や意見交換をして、連携が取れる関係作りを築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜勤を除き、日勤帯では玄関は開錠できている。自由を束縛されることなく、安全に生活できることを理念に上げ、実践している。	職員は身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は施錠せず、不安定な利用者には見守りや気配りで、安全に配慮した努力がうかがえる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉使い等、強制的なものになっていないか、尊厳が守れているか、職員間で指導し合い、常に襟を正せる環境作りを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加し、必要性のある方については情報提供できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはご家族にご理解いただき、納得していただいたうえでやっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様や家族様には、家族会の時などに意見を伺い、要望がある時は必ず運営推進会議等にて報告し、対応している。	面会時には、近況報告だけでなく意見や要望を聞き、職員は情報を共有している。意見や要望に対応する姿勢を持ち、家族会や運営推進会議等を利用して報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1度のミーティングでは、必ず職員からの意見や要望を聞く機会を設け、対応している。	2ヶ月に1回、朝礼で事業所としての方針や状況を説明し、月1回のミーティングで職員の意見や要望を聞く機会を設けて、話し合い理解して、運営に反映させている。内部改装で環境改善を実現し、サービスやケアに成果が出ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の給料、労働条件等、透明性を確保し、やりがいを持ち働きやすい環境を整備できるよう、最大限努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員を育てることの2つの取り組み。 ①2ヶ月に1回全員朝礼を開催し、会社の状況を伝え、方針を示す。 ②個人研修記録による研修を進める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	できる限り研修に参加し、介護職員としてスキルアップが図れるよう取り組むことができています。三豊市介護サービス事業所協議会、香川県介護サービス事業所協議会に参加し、職員交流を図っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず、ご本人の思いを伺ったり関係者から情報を提供していただき、ご本人の不安が軽減できるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人に対するご家族様等の意向を伺い、不安に思われていることが軽減できるように取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前訪問を実施し、グループホームを選択していただいた理由をお伺いし、どのような支援を希望しているのかをプランに反映している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	高齢者の方は経験豊富であり、職員が指導を受ける場面が多くある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様が親族の方に愛され、見守られていることを実感できることが、精神の安定を図るうえで最も大切であり、ご家族様の方の協力を常にお願ひし、共に支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	美容院や衣料店等、入居前から通っていた所にお連れし、ご家族様の協力をいただき、敬老会の参加や友人宅を訪問したり、友人の方が面会に来ていただいた時は、最大限の歓迎をし、再び訪問していただけるようにしている。	家族の協力を得ながら、美容院や親戚宅、友人宅への訪問、墓参り、地域の敬老会への参加等で、馴染みの場所や人との関係を継続している。友人への電話や手紙も勧めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	空間作りとして、ソファの空間、テーブルの空間と居場所作りをし、入居者様の安定が図れるよう心地良い空間作りができています。レクリエーションや作業を提供させていただいたり、職員が入居者同士、楽しんで会話できるよう橋渡しする等支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後に家族より相談がある場合などは、できる限り時間を設け、相談に応じています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	特別養護老人ホームの順番がきた時などは、ご本人やご家族様の希望を十分聞き、希望にそえられるよう支援している。毎日の食事の時やお茶の時間に、入居者様が行きたい場所やしたいこと等を話し合い、実現できるようにしている。	本人や家族の希望を聞いたり、日々の生活の様子や会話から意向の把握に努め、買物や外出の場所、行事等に反映させている。また、毛糸で座布団カバーを編んでもらうなど、潜在能力を引き出し、暮らし方に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人が大切にしている物を受容し、安心して暮らせる環境を整備している。親族の方の面会時には、できるだけ多くの情報を伺えるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや毎朝の健康チェックにより状態変化を確認し、変化を早期に発見し、対応できるように努めている。また、孤立している人がいないか等を把握し、支援に活かせるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々の状態変化を記入するノートを作成しており、モニタリングに活かしている。ケアプラン原案を皆で確認し、意見を出し合い反映させている。ご本人、ご家族に必ずご意見を伺い、介護計画に反映させている。	利用者の日常生活での変化や気づいたこと等をノートに記録して、モニタリングに活用している。また、本人、家族や職員の意見を参考にして話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の生活情報記録には、介護計画に沿った記録ができるように努め、職員間で情報を共有し、意見を出し合い、支援方法を検討して実践しており、介護計画の見直しに活かすことができている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	専門医の受診や外出時など必要に応じ、職員の人員配置を多く取るように対応している。また、入浴の回数等も個々の状態を考慮して、支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員の方の訪問やボランティアの訪問、美容室、衣料店、専門医の受診、郵便局など、支援により利用することができる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診については、事前に希望をお聞きしており、状態変化時はかかりつけ医に必ず報告し、治療を受けた場合はご家族に報告できている。専門医の受診時は、親族の方のご協力も得ながら支援している。	内科の医師が月2回往診しており、それ以外で状態変化や専門医の受診が必要な場合は、家族の協力を得ながら、適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化がある時は必ず報告し、主治医の指導を受け、指示に従い支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院が必要になった時は、必ず介護要約を提出している。また、入院中も病院関係者に、退院に向けての受け入れに必要な情報等を指導していただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から事業所のできることで、できないことをご家族に説明し、かかりつけ医の指導を受け、今後の方針について関係者が共有し、かかりつけ医の指導を受けながら、できる限り希望に沿えるように努めている。	本人、家族の希望を聞き、事業所の方針や対応可能な範囲を説明して、状況の変化に応じた支援ができるように、関係者で話し合いながら情報を共有し、取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に行うミーティング等で、急変や事故発生時の対応方法について指導を受けたり、話し合う場を設け、各自イメージトレーニングを行い、職員間での実技訓練を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難場所や誘導方法について訓練を行ったり、指導を受ける場を設けている。地域の方には協力していただけるようお願いしている。	防災訓練は年2回実施している。避難場所や誘導方法について訓練をしたり、地域に協力をお願いしている。	職員だけの誘導や避難には人数的に制約や限界があり、今後も災害対策に関して、地域の理解を得ることや協力体制の構築について継続的に取り組んでほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応、プライバシーに配慮した尊厳を守るために、職員同士がチェック、襟を正し合えるようにしている。	一人ひとりに尊重した対応を実施するために、職員は、お互いが利用者への言葉かけを意識しており、職員間で気づいたことを注意しながら、適切な対応に向けて努力をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	無理強いすることなく、自己決定が困難な入居者様に対しても最終的な決定は、入居者様が行えるような声かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課を強制するのではなく、ご本人の意思でレクリエーションや作業、行事等に参加できるように様々な提案を行い、希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時には職員が、ご本人様に着たい物を選択できるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の食事を分け、グループごとに自分達が食べる食事の盛り付けを行ったり、職員と一緒に食器洗いなどをしていただいている。個々の能力に応じた作業に参加いただいている。	昼食と夕食は、関連施設で作った食事を提供している。食事の盛り付けや片付け等、利用者の能力に応じた役割を職員と一緒にしている。利用者は、「食事がおいしく楽しみ」と言いながら食べていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	適切な量を摂れていない時は、ご本人の好みの物を提供させていただき、適量を摂れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施するために声かけや誘導させていただき、口腔ケアができるように支援している。また、状態悪化時には、口腔内清拭を行う場合もあるが、通常はご本人の能力に応じた支援を行うことができている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立歩行ができず、尿意の訴えない方も、日中は定期的にトイレに誘導している。	一人ひとりの排泄パターンを把握しながら、日中はトイレ排泄や誘導をしている。利用者の状況や時間帯で、リハビリパンツやパッド、オムツ等を利用して排泄支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の及ぼす悪影響や予防策など、ほぼ毎日、入居者様にお伝えし、適切な水分摂取や軽体操を一日2回行うなど、予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には、週3回の入浴でお願いしているが、入居者様の状態により、毎日入られる方もいる。曜日については基本的に決めさせていただいているが、希望があれば、それに沿っている。	入浴は週3回を予定しているが、利用者の身体状況で毎日入浴するなど、清潔保持や気分良く楽しむ入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンやその日の健康状態により声かけし、日中も休んでいただいたり、気持ちよく休息が取れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	追加になった薬などは、目的、副作用、用法や用量について、必ず職員全員が把握できるようにノートを作成して、確認済みの印を押している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様一人ひとりの状況に応じて、作業を提供させていただいたり、散歩やドライブ、外食・買い物等、気分転換が図れるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外出の希望があれば、できるだけ早い機会に沿えるように職員が対応している。また、お墓参りや親族の方の家、友人宅への外出、地域の敬老会などについては、親族の方の協力をいただき支援している。	日常的な外出や、普段は行けない場所にも出かけるように支援をしている。利用者の希望に沿えるように、初詣や花見等の季節に応じた外出や、散歩や買物、ドライブ、併設施設での行事にも出向いて参加している。最近では、100円ショップでの買物を楽しみにしている利用者があり、日時を案内している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持を希望される方は、ご自分で必要時に使えるように支援している。また、月に一度は全員で買い物や外食に行き、入居者様が支払えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	状態に応じ、ご家族や友人宅に電話を掛けたり、手紙を書くことを勧め、やり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前は畳の間があった所をフローリングにし、そこにテレビとソファを置くことで、入居者様のゆったりとした空間ができたように思う。また、毎月のカレンダーや壁飾り等の季節感を採り入れた物を、入居者様とともに作成している。	共用空間は、音、光、臭気等の不快な刺激はなく、温度管理や清掃にも配慮している。内部改装をして、テレビやソファを配置し、利用者が思い思いに過ごせる居場所の提供を工夫している。また、利用者のぬり絵による大きな手作りカレンダーが、季節感を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室ではテレビを観たり、読書や書き物をされるなど自由な時間を楽しまれ、また、入居者様同士がお互いの部屋を訪れ、会話を楽しまれている等、自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	親族の方と一緒に写した写真を貼ったり、思い出の品を置く等、大切な人や大切な物に囲まれて過ごせるように支援している。	居室の入口は目印をして、本人の混乱を避ける工夫をしている。ベッドや戸棚等が整備され、本人や家族の写真や馴染みの小物が飾られ、利用者が居心地よく過ごせる空間作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや洗面所等には、分かりやすいように表示したり、居室に目印を付ける等、不安なく行動に移せるように工夫している。		